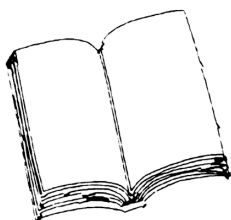


【概況報告】



2000年10月～12月

ウラン探鉱 ウラン濃縮技術の開発

ウラン探鉱

1. 権益維持

海外のウラン資源の権益を国内民間企業等に移管するまでは、権益の適切な維持とこれまでの成果の取りまとめを実施することとなっている。成果の取りまとめについては、取りまとめ本文の作成を行った。

カナダの権益移転については、譲渡契約書及び合意確認書を締結し、カナダ権益の民間への移転

を完了した。また、「海外権益移転検討委員会」（外部評価委員会）を開催し、カナダ権益移転に関する報告を行った。

海外現地法人の清算作業として、米国法人の清算準備を実施した。オーストラリア法人事務所を2000年10月31日に閉鎖した。国内民間移転の対象外となったオーストラリアの小規模権益について、売却手続き等を実施した。

（東濃地科学センター）

ウラン濃縮技術の開発

1. 遠心機開発

日本原燃株式会社及び電力10社との共同研究として実施している遠心機開発は、遠心機内部に六フッ化ウランガスを流通し、ガス流通部の圧力測定試験、回転体の温度分布測定試験を行うとともに、遠心機から抜き出された六フッ化ウランガスをサンプリングし、ウラン同位体の存在比測定を行うなどの分離特性試験を行った。また、遠心機を構成する金属材料について、六フッ化ウランガスに対する耐腐食性試験を行った。

将来の遠心機開発に必要な基礎的・基盤的技術開発として実施している遠心法先導的技術開発は、超高性能遠心機の回転振動特性試験、軸受け特性試験を行うとともに六フッ化ウランガスの抜き出し特性試験、六フッ化ウランガス流通部の圧力測定試験、回転体の温度分布測定試験、遠心機から抜き出された六フッ化ウランガスをサンプリングし、ウラン同位体の存在比測定を行う等の分離特性試験を行った。また、超高性能遠心機を構成する金属材料の六フッ化ウランガスに対する耐腐食性試験、超高性能遠心機の強度・回転特性解析と開発成果報告書の取りまとめを行った。

2. 原型プラント

電力会社との3年間延長運転の追加役務契約に

基づき、第一運転単位（DOP-1）にて、回収ウラン原料による濃縮役務運転を継続した。

なお、第二運転単位（DOP-2）については、1999年11月より停止し、窒素ガスを封入しているが、滞留ウラン回収試験のため、一部の遠心機を濃縮工学施設に移設した。

3. 滞留ウラン回収技術開発

濃縮機器やプラント内に滞留しているウランを回収することを目的とする滞留ウラン回収技術開発については、基礎試験結果に基づき、フッ化ガス製造設備の設計、装置の仕様検討及び科学技術庁への使用変更許可申請準備等を行った。

また、滞留ウランの除去及び回収試験で使用する排風機、排気ダクト等の排気設備設置工事及び排気モニタ、フッ化水素モニタ等の放射線監視設備設置工事について、2000年10月19日科学技術庁の施設検査に合格し、2000年11月17日の保安規定の認可をもって運用を開始した。

濃縮工学施設においては、集合型遠心機（DOP-2型遠心機）による滞留ウラン除去試験に使用する設備の改造を完了し、試験の準備を開始した。

（東海：環境保全・研究開発センター）
（人形：施設管理部）